

2017年
聖徒伝 119

「主への信頼を 日々決断しよう」

列王記第一 18章

カルメル山での対決

アウトライン

0. イントロダクション

I. アハブ王との再会 18章1～19節

II. カルメル山での対決 18章20～40節

III. 降り注ぐ大雨 18章41～46節

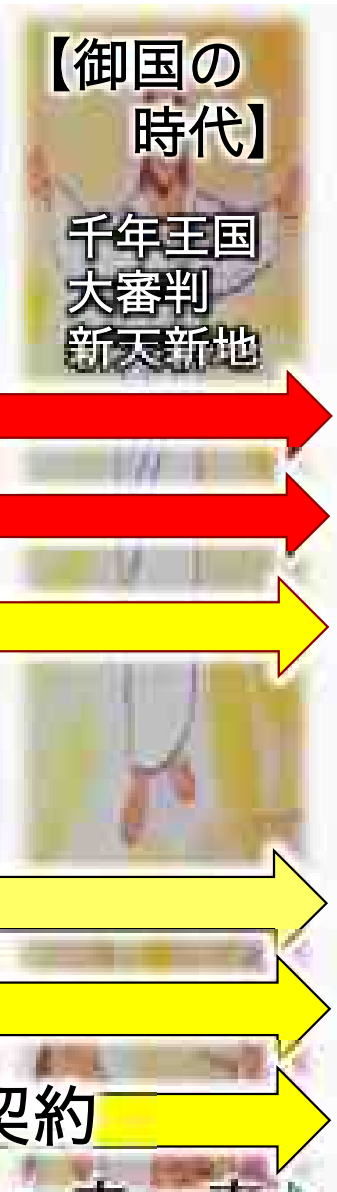
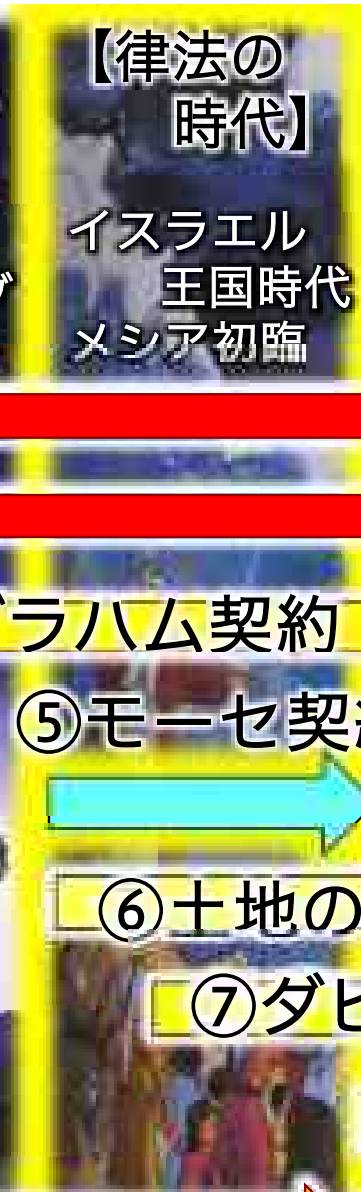
IV. まとめと適用

ただ主に信頼することを

日々決断していこう



カルメル山



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

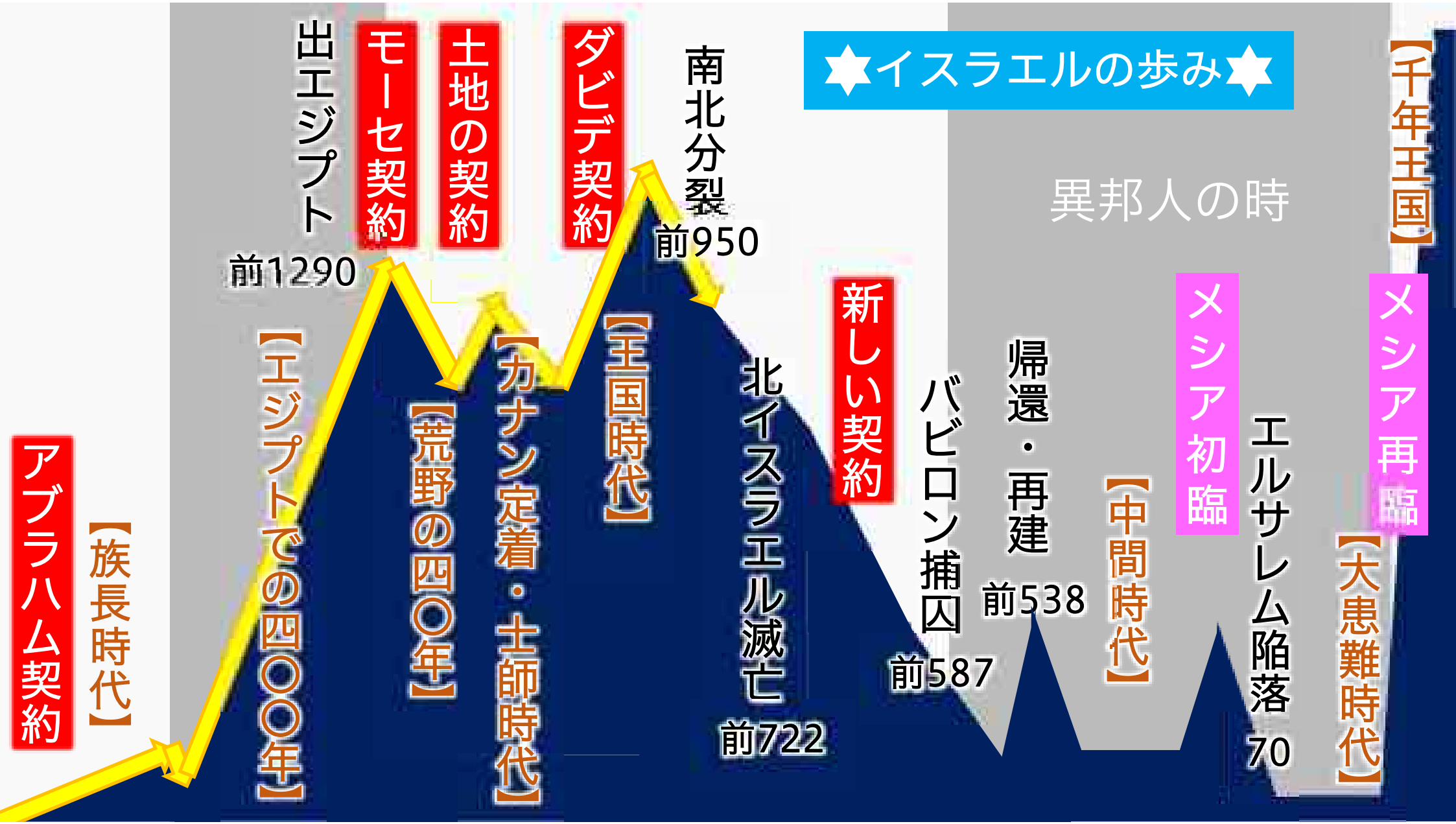
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

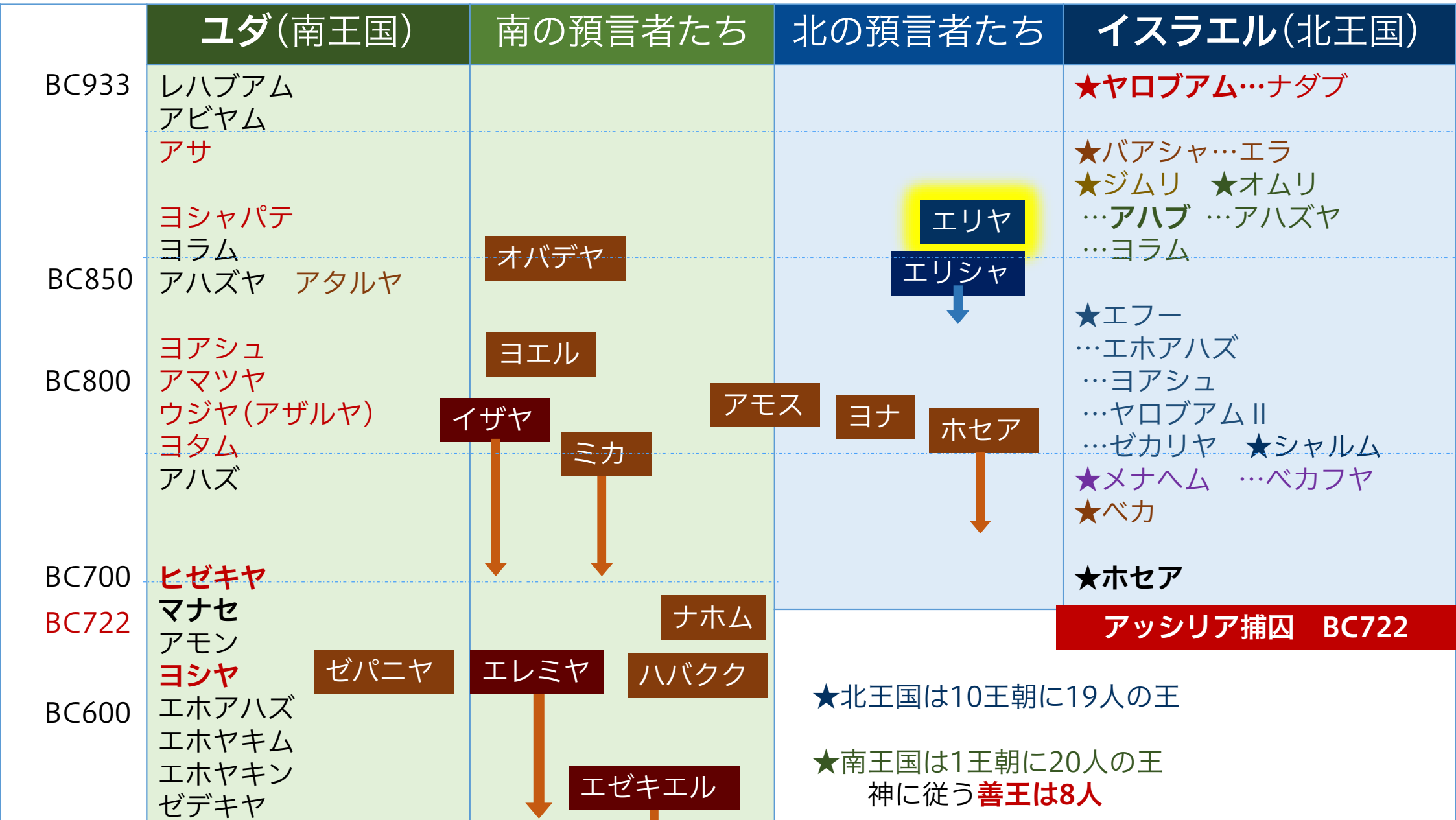
★イスラエルの歩み★



列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バアシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ ホセア	
	2〜13章	預言者エリシャ			
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王



墮落の一途をたどった北王国の末路

■ ソロモンの死後、王国は分裂。北王国の王となった**ヤロブアム**は、金の子牛を築き、レビ人を追放、偽祭司を立て、偶像を蔓延させた。

■ 背教の末、ヤロブアムの一族は、二代目ナダブの時代に全滅。

➔ 以後、北王国は王朝が変わる度に、王族は全滅。

■ 王たちはことごとく**ヤロブアムの道**に進み、闇は深まっていった。

■ 北王国7代目の王**アハブ**は、ヤロブアムの罪も軽く見えるほど。

イゼベルを妻とし偶像礼拝を国の礎に!!

北王国は最悪の時代に!!

預言者の系譜

■ **預言者**とは、「**神の言葉を預かり、民に告げる者**」

→ **予見者、神の人**とも呼ばれる。…アブラハム、モーセも預言者。

■ 最初に**預言者**を組織化したのが、サムエルだった。(1サム10章)

ダビデが組織した奏楽隊は、**預言者**集団でもあった。(1歴25:1)

■ **預言者**たちは、神の律法を学び、人々に教えた。

危機の時代には、時に、**神の直接の言葉(預言)**を王や民に告げた。

→ **預言**の多くは、叱責や警告。時に、称賛や奨励も。

■ イスラエルの背教により滅亡がせまる南北時代、

預言者の働きが強まっていく。

**南北時代は、
預言者の時代!!**

北王国 イスラエル

【ヤロブアム王朝】

ヤロブアム

22年

ナダブ
2年

【バアシャ王朝】

バアシャ

24年

エラ
2年

ジムリ
7日

北王国最悪の時代 

エリヤ

エリシャ

イゼベル 

【オムリ王朝】

オムリ

12年

アハブ 

22年

ヨラム

アハズヤ
2年

12年

南王国 ユダ

レハブアム

17年

アビヤム
3年

アサ 

40年

ヨシャパテ 

25年

ヨラム

8年



Ⅰ. アハブ王との再会

Ⅰ 列王記18章1～19節

カルメル山

【主のことば】 Ⅰ列王記18:1~2

かなりの日数を経て、三年目*に、次のような【主】のことばがエリヤにあった*。「アハブに会いに行け。わたしはこの地の上に雨を降らせよう。」そこで、エリヤはアハブに会いに出かけた。そのころ、サマリアでは飢饉がひどかった。

* 飢饉の期間は3年半。(マタイ4:25,ヤコブ5:17)

■ 3年雨がなくとも、地下水脈は生きていただろう。

例) 富士山に降った雨→湧水(数年~数十年)

* 主の懲らしめの時が終わった。



異邦の地シドンから
サマリアへ

【オバデヤ】 | 列王記18:3~4

アハブは宮廷長官オバデヤを呼び寄せた。オバデヤは【主】を深く恐れていた*。

かつてイゼベルが【主】の預言者たちを殺したときに、オバデヤは百人の預言者たちを救い出し、五十人ずつ洞穴の中にかくまい、パンと水で彼らを養った*のである。

*主への深い恐れは、信仰の証明。

*石灰岩質の土地には、いたるところに洞窟が。

飢饉中とすれば、食糧の確保も大変なこと。

→アハブ王にばれば、即、殺される!!

オバデヤもイスラエルの残れる信仰者の一人



【水を求めて】 Ⅰ列王記18:5～6

アハブはオバデヤに言った。「国内のすべての水の泉や、すべての川に行ってみよ。馬とらばを生かしておく*草が見つかり、家畜を絶やさないのですむかもしれない。」二人はこの国を分けて巡り歩くことにし、アハブは一人で一つの道を行き*、オバデヤは一人で別の道を行った。

*馬、らばは、主に軍用。

■いよいよ家畜にまわす水が枯渇してきた。
牧畜民の存続がかかった自体に!!

*もちろん部下たちも従え、2隊に分かれて。



アハブに従うオバデヤ
干ばつの真の原因は？
王に告げるべきことは？

【オバデヤ、エリヤに会う】 | 列王記18:7~8

オバデヤ*がその道にいた*ところ、エリヤが彼に会いに来た。オバデヤにはそれがエリヤだと分かったので、ひれ伏して言った。「あなたは私の主人*エリヤではありませんか。」

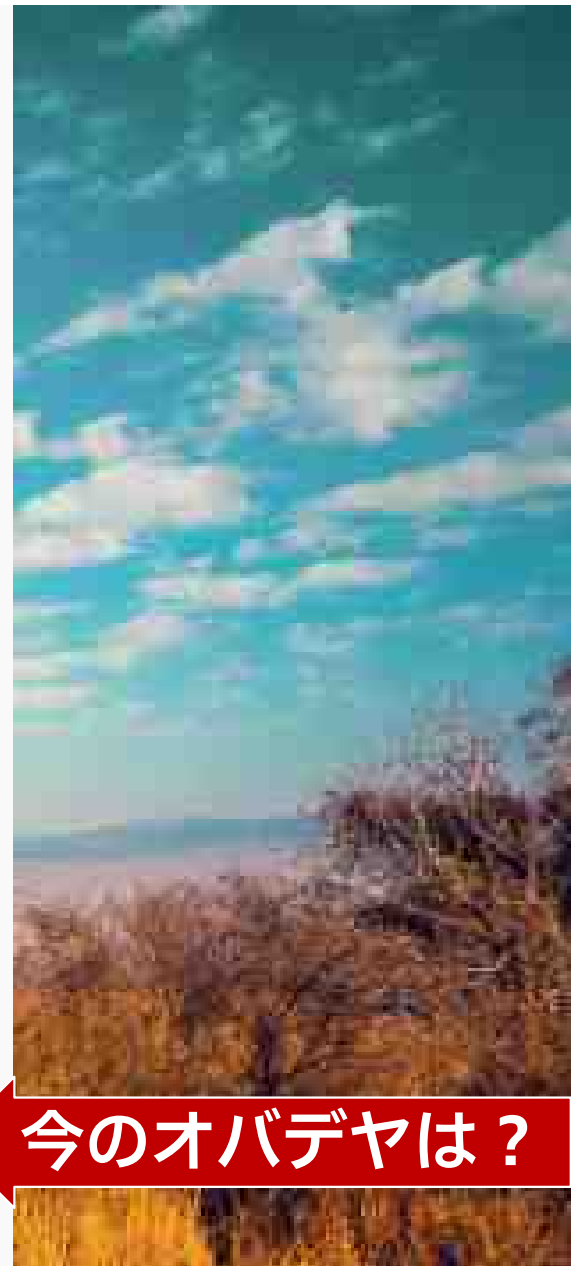
エリヤは彼に答えた。「そうです。行って、エリヤがここにいると、あなたの主人*に言いなさい。

*“ヤハウエのしもべ” *アハブに従う道?!

*「今の主人はアハブ王だろ？」 ← 厳しい切り返し

■ オバデヤはエリヤに師事していたのだろうか…。 ←

今のオバデヤは？




【アハブの執拗な追跡】 | 列王記18:9~10

すると、オバデヤは言った。「私にどんな罪があると言うのですか。あなたがこのしもべをアハブの手に渡し、殺そうとされる*とは。

あなたの神、【主】は生きておられます*。私の主人があなただを捜すために人を遣わさなかった民や王国は一つもありません。その王国や民が、あなただはいないと言うと、主人は彼らに、あなただが見つからないという誓いをさせています*。」

*エリヤが見つからなかったのは、神の奇跡!!

*後で見つかったら、死をもって責任が問われる。



オバデヤが
恐れているのは、
神ではなく王。
自分が殺されること

【オバデヤの覚悟】 | 列王記18:11~12

「今、あなたは『行って、エリヤがここにいるとあなたの主人に言え』と言われます。

私があなたから離れて行っている間に、【主】の霊はあなたを私の知らないところに連れて行く*でしょう。私はアハブに知らせに行きますが、あなたを見つけられなければ、彼は私を殺すでしょう。しもべは子どものころから【主】を恐れています*。」

*3年前、王に預言したエリヤは忽然と姿を消した。

→ 主の業だと正しく認識しているオバデヤだが。

*理不尽に死にたくない。おののき訴えるオバデヤ。

今、何を
恐れているのか？

【エリヤの約束】 | 列王記18:13~16

あなたには、イゼベルが【主】の預言者たちを殺したとき、私のしたことが知らされていないのですか。私は【主】の預言者百人を五十人ずつ洞穴に隠し、パンと水で彼らを養ったのです。

今、あなたは『行って、エリヤがここにいるとあなたの主人に言え』と言われます。彼は私を殺すでしょう*。」

← 恐れに囚われ続けているオバデヤ

すると、エリヤは言った。「私が仕えている万軍の【主】は生きておられます。私は必ず、今日、アハブの前に出ます。」

オバデヤは行ってアハブに会い、彼に告げたので、アハブはエリヤに会うためにやって来た。

問われるのは
過去でなく今

ただ主に信頼して
約束するエリヤ



【アハブとの対面】 | 列王記18:17~18

アハブがエリヤを見るやいなや、アハブは彼に言った。「おまえか、イスラエルにわざわいをもたらす者は。」

← 強い被害者意識こそ不信仰の表れ

エリヤは言った。「私はイスラエルにわざわいをもたらしてはいない。あなたとあなたの父の家*こそ、そうだ。現に、あなたがたは【主】の命令を捨て、あなたはバアルの神々*に従っている。」

*アハブと父オムリ、その一族。

*“バアリム(複数形)” → 様々なバアルがあった。

カナン土着のバアルもはびこっていたのだろう。



← 偶像は欲望の数だけある

【エリヤの果たし状】 | 列王記18:19

「今、人を遣わして、カルメル山*の私のところに、全イスラエル、ならびにイゼベルの食卓に着く*、四百五十人のバアル*の預言者と四百人のアシェラ*の預言者を集めなさい。」

*バアル(豊穡神)礼拝の聖地・総本山

➔最大の穀倉地帯イズレエル平原を臨む山

*王女イゼベルが養い、交わっていた。

*バアル神と*アシェラ神は夫婦とされていた。

➔夫婦神がセットで祭られ、組織化、体系化。





II. カルメル山での対決

I 列王記18章20～40節

カルメル山

【カルメル山に集結】 | 列王記18:20~21

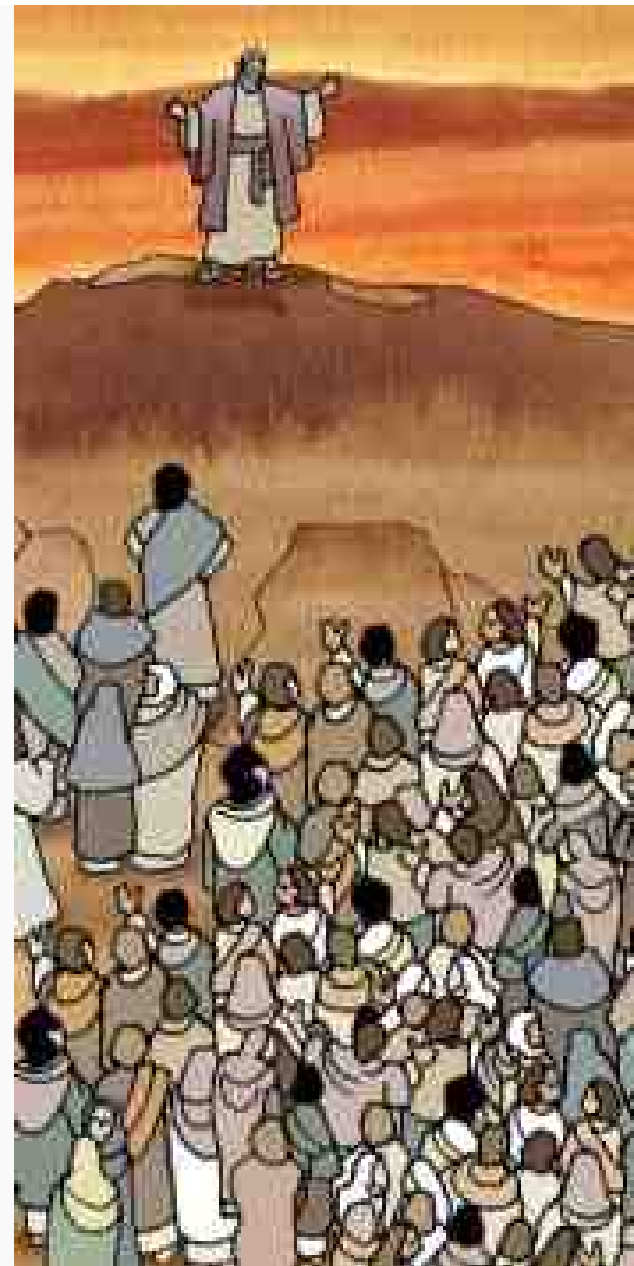
そこで、アハブはイスラエルのすべての人々に使者を遣わして、預言者たちをカルメル山に集めた。

エリヤは皆の前に進み出て言った。「おまえたちは、いつまで、どっちつかずによろめいているのか*。もし【主】が神であれば、主に従い、もしバアルが神であれば、バアルに従え。」しかし、民は一言も彼に答えなかった*。

*オバデヤですら恐れに囚われている現実が。

主に従うか、背くか。選択は常に二者択一

*この沈黙こそ、どっちつかずの現状の証拠。



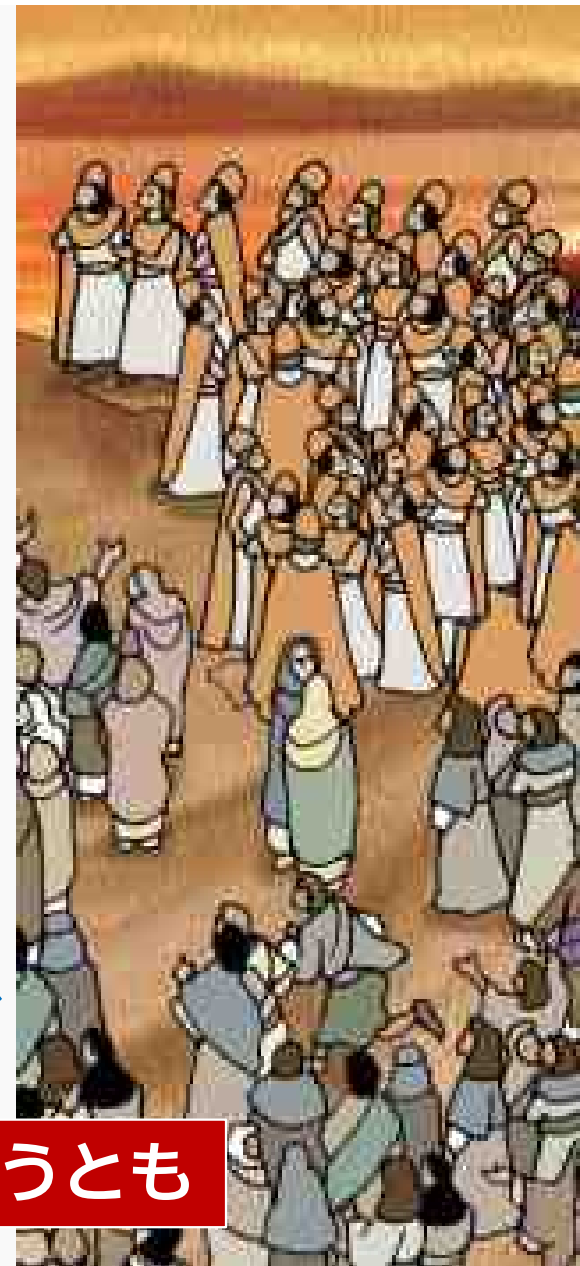
【エリヤの提案と宣言】 Ⅰ 列王記18:22～24

そこで、エリヤは民に向かって言った。「私一人
が【主】の預言者として残っている*。バアルの預
言者は四百五十人だ。 (*エリヤの実感だろう)

私たちのために、彼らに二頭の雄牛を用意させよ。
彼らに、自分たちで一頭の雄牛を選び、それを切り
裂いて薪の上に載せるようにさせよ。火をつけては
ならない。私は、もう一頭の雄牛を同じようにし、
薪の上に載せて、火をつけずにおく。

おまえたちは自分たちの神の名を呼べ。私は
【主】の名を呼ぶ。そのとき、火をもって答える神、
その方が神である。」民はみな答えて、「それがよ
い」と言った。

信仰とは、宣言だ!! 他者がどうあろうとも



【バアルの預言者たち】 Ⅰ列王記18:25～26

エリヤはバアルの預言者たちに言った。「おまえたちで一頭の雄牛を選び、おまえたちのほうから、まず始めよ。人数が多いのだから。おまえたちの神の名を呼べ。ただし、火をつけてはならない。」

そこで彼らは、与えられた雄牛を取って、それを整え、朝から真昼までバアルの名を呼んだ。「バアルよ、私たちに答えてください。」しかし何の声もなく、答える者もなかった。そこで彼らは、自分たちが造った祭壇のあたりで踊り回った。



【狂騒の果てに】 Ⅰ 列王記18:27～29

真昼になると、エリヤは彼らを嘲って言った。

「もっと大声で呼んでみよ。彼は神なのだから。きっと何かに没頭しているか、席を外しているか、旅に出ているのだろうか。もしかすると寝ているのかもしれないから、起こしたらよいだろう。」

彼らはますます大声で叫び、彼らの慣わしによって、剣や槍で、血を流すまで自分たちの身を傷つけた。このようにして、昼も過ぎ、ささげ物を献げる時*まで騒ぎ立てたが、何の声もなく、答える者もなく、注目する者もなかった。

(*15時頃。神殿のささげ物の時刻は朝と夕)



【民に呼びかけるエリヤ】 | 列王記18:30

エリヤが民全体に「私のそばに近寄りなさい」と言ったので、民はみな彼に近寄って来た*。彼は、壊れていた【主】の祭壇を築き直した*。

*心が徐々に開かれてきた？

→明らかにになった偶像神のたよりなさ。

*かつてはカルメル山にもヤハウエの祭壇が!!



【イスラエルを覚えて】 | 列王記18:31~32

エリヤは、【主】がかつて「あなたの名はイスラエル*となる」と言われたヤコブの子たちの部族*の数にしたがって、十二の石*を取った。

その石で、彼は【主】の御名によって一つの祭壇を築き*、その祭壇の周りに、ニセア(15.2ℓ)の種が入るほどの溝*を掘った。

*南北分断の時代にも主の目にイスラエルは一つ。

→全イスラエルを代表してささげるエリヤ

*種をまくには、ありえないくらい深い溝

*律法に従い、自然のままの石で築いた(申27:6)



エリヤの時代に
立ち続けるべきは
モーセへの
神の約束・律法

【準備】 | 列王記18:33～35

それから彼は薪を並べ、一頭の雄牛を切り裂いて薪の上に載せ、「**四つのかめ***に**水***を満たし、この全焼のささげ物と薪の上に注げ」と命じた。それから「もう一度それをせよ」と言ったので、彼らはもう一度そうした。さらに、彼が「**三度目をせよ**」と言ったので、彼らは**三度目をした***。

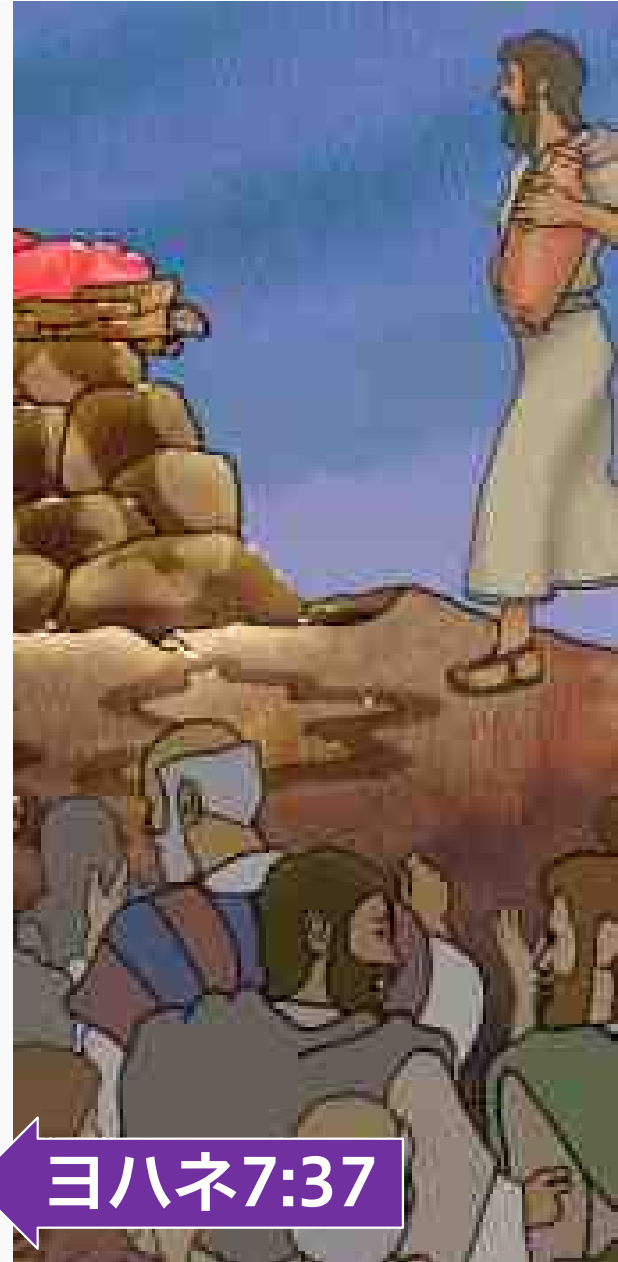
水は祭壇の周りに流れ出した。彼は溝にも水を満たした。

*4つのかめ × 3度 = 12杯 …イスラエルを象徴？

*水は聖霊の象徴。仮庵祭では祭壇に水を注いだ。

「誰でも渴く者は私のところにきて飲むがよい」

ヨハネ7:37



【エリヤの祈り】 | 列王記18:36

ささげ物を献げるころになると、預言者エリヤは進み出て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神*、【主】よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、私があなたのしもべであり、あなたのおことばによって私がこれらすべてのことを行った*ということが、今日、明らかになりますように。」

*イスラエルの神のフルネーム

➡主は、民との約束を守り、歴史を支配する神。

*預言者が求めるしるしは、語られたことが、

“確かに神の言葉である”という証拠となるもの。



【主の火】 Ⅰ列王記18:37~38

「私に答えてください。【主】よ、私に答えてください。そうすればこの民は、【主】よ、あなたこそ神であり、あなたが彼らの心を翻して下さったことを知る*でしょう。」

すると、【主】の火が降り、全焼のささげ物と薪と石と土を焼き尽くし、溝の水もなめ尽くした。

*エリヤの切実な願いは、イスラエルの悔い改め

➔これこそ、神の御心に適う祈り

神の証人となることが、神の民の使命だから!!

*神の栄光・シャカイナグローリー



【民の告白】 | 列王記18:39~40

民はみな、これを見てひれ伏し、「【主】こそ神です。【主】こそ神です*」と言った。

そこでエリヤは彼らに命じた。「バアルの預言者たちを捕らえよ。一人も逃すな。」彼らがバアルの預言者たちを捕らえると、エリヤは彼らをキシヨン川*に連れて下り、そこで彼らを殺した。

*悔い改めたイスラエルの民の告白。

➡エリヤを通して、神の意志は成し遂げられた。

*イズレエル平原を流れる川





III. 降り注ぐ大雨

I 列王記18章41～46節

カルメル山からイズレエル平原を臨む

【和解のささげ物】 | 列王記18:41~42

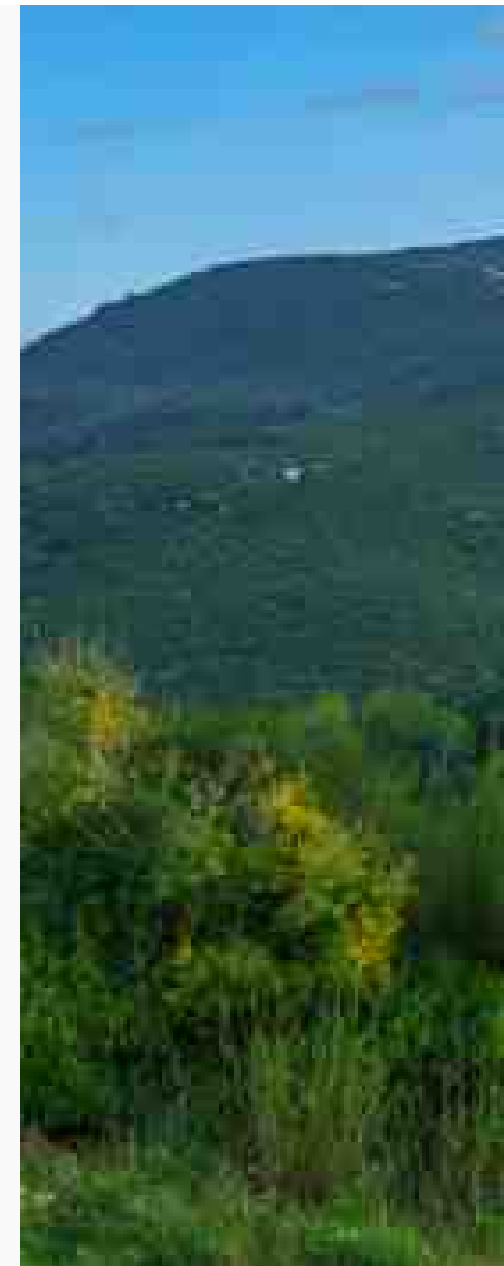
エリヤはアハブに言った。「上って行って、食べたり飲んだり*しなさい。激しい大雨の音がするから。」

そこで、アハブは食べたり飲んだり*するために上って行った。エリヤはカルメル山の頂上に登り、地にひざまずいて自分の顔を膝の間にくずめた*。

*和解のささげ物を求めた。➡主との和解の食卓。

この時には、アハブも表面的には悔い改めた？

*なお祈りの姿勢をとるエリヤ ➡礼拝は続いている



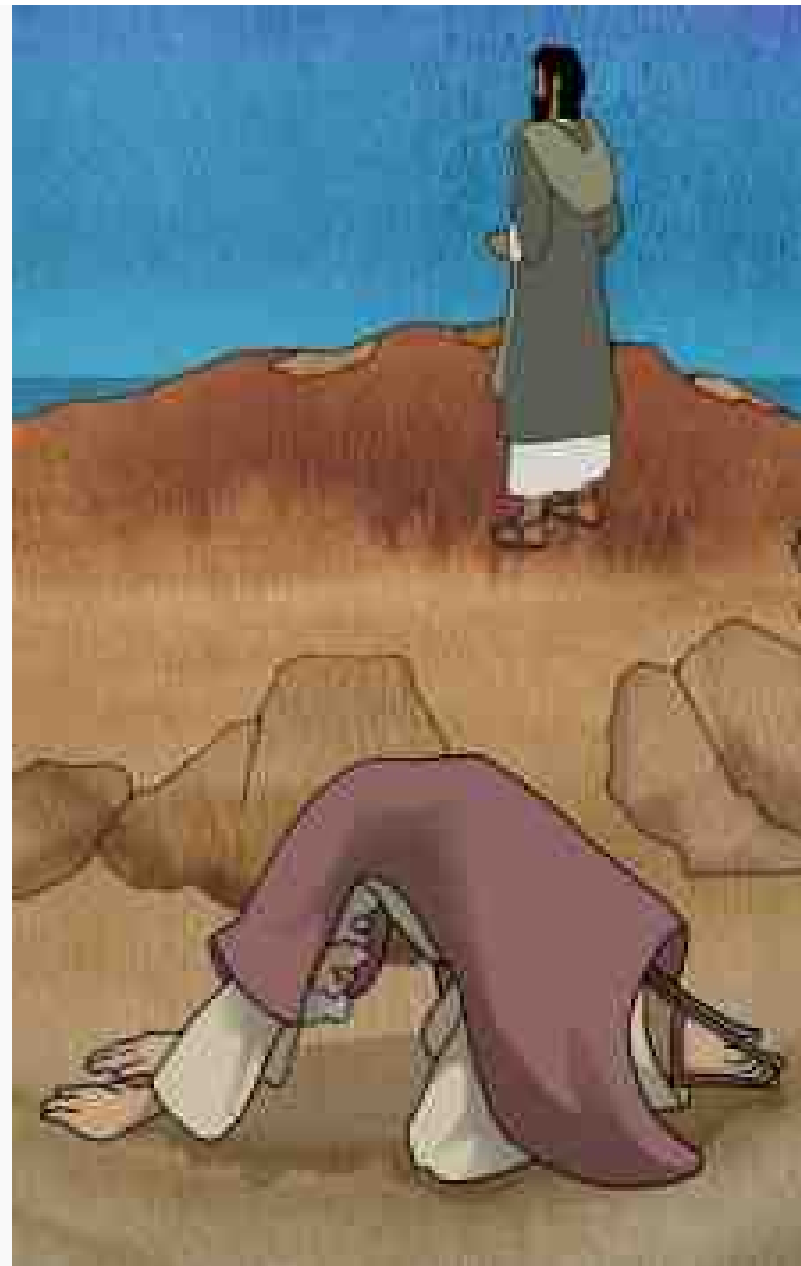
【エリヤの指示】 Ⅰ列王記18:43

彼は若い者*に言った。「さあ、上って行って、海の方をよく見なさい。」若い者は上って、見たが、「何もありません」と言った。するとエリヤは「もう一度、上りなさい」と言って、それを 七回繰り返した*。

*主に立ち返ったエリヤのしもべ、弟子。

*七は完全数。

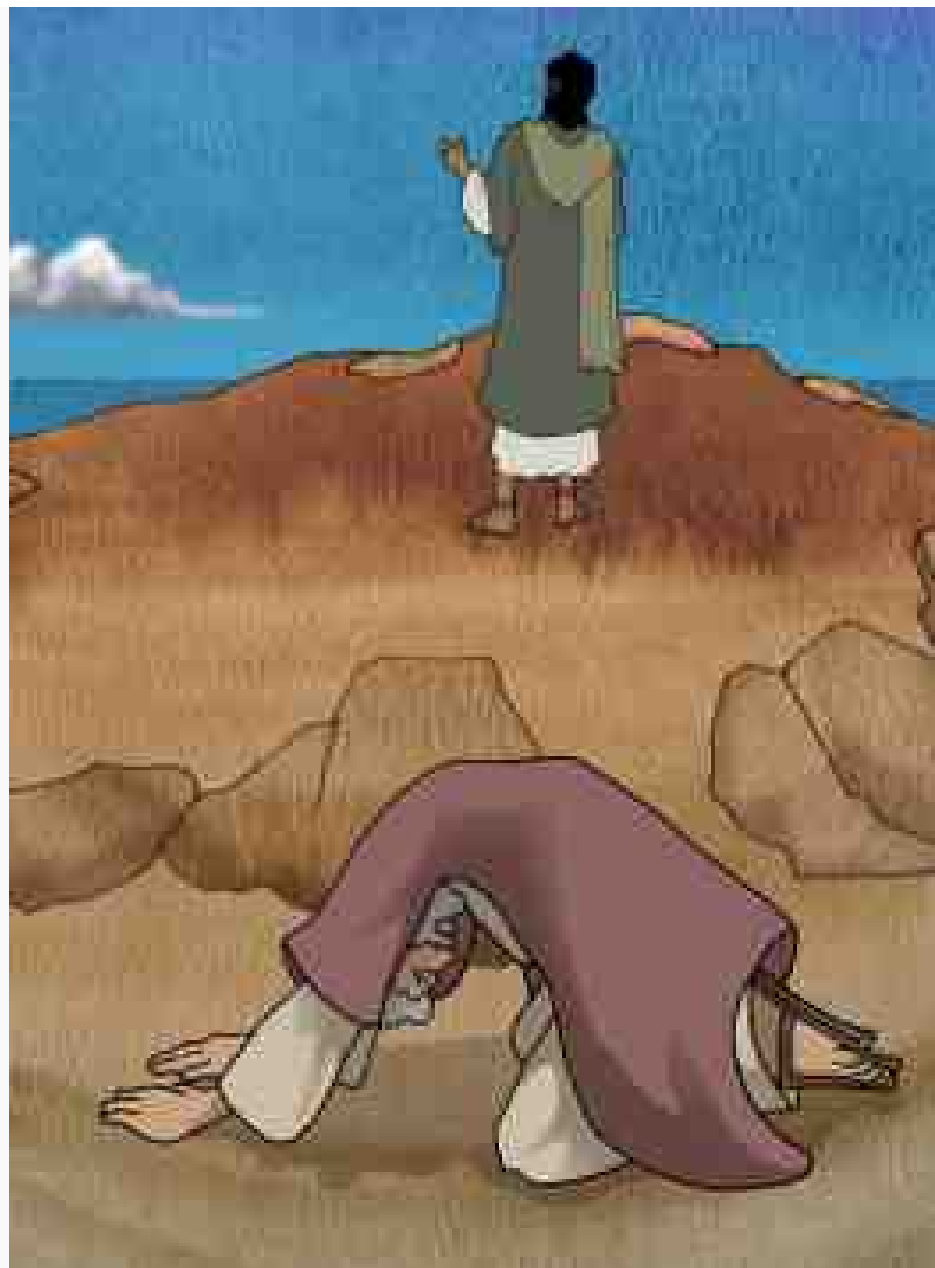
■この間、ひれ伏し、主に祈り続けていたエリヤ。



【雨雲】 | 列王記18:44

七回目に若い者は、「ご覧ください。人の手のひらほどの小さな濃い雲が海から上っています」と言った。エリヤは言った。「上って行って、アハブに言いなさい。『大雨に閉じ込められないうちに、車を整えて下って行きなさい。』」

*雨で道がぬかるめば戦車は動けない。

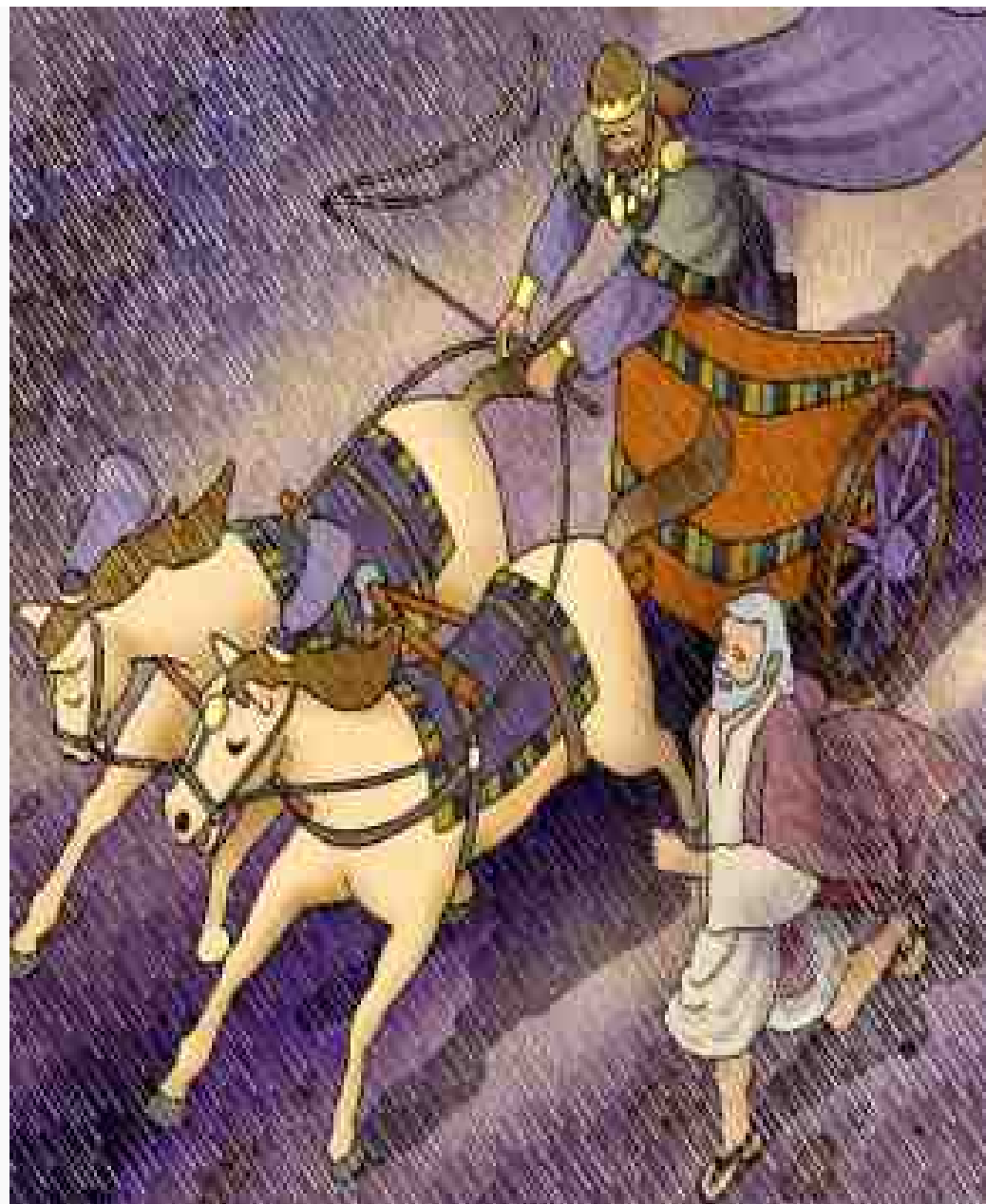


【王の先駆者】 I 列王記18:45～46

しばらくすると、空は濃い雲と風で暗くなり、やがて激しい大雨となった。アハブは車に乗って、イズレエルへ行った。

【主】の手がエリヤの上に下った*
ので、彼は裾をたくし上げて、イズレエルの入り口までアハブの前を走って行った。

■ エリヤこそ、真実の王の先駆者
アハブが従うべきは主だと明確!!





IV. まとめと適用

ただ主に信頼することを日々決断していこう

カルメル山から地中海を臨む

【恐れが信仰を遠ざける。オバデヤを反面教師として】

- 命を賭して預言者たちを守ったオバデヤだが、恐れに囚われ、偶像礼拝者のアハブを主人とし、従う道に。➡エリヤは見抜いた!!
➡掲げた大義名分が罠に。自らの内にある恐れをごまかしていた。
- 過去の功績は、今の信仰を保証してはくれない。
➡私の信仰は今、この瞬間に問われている。
- 信仰の大義名分を掲げながら、恐れに囚われていないだろうか？
➡あなたのその決断は、**主への信頼**に基づいたものか？
➡**“決断の結果”**としての**平安**を覚えているだろうか？

【カルメル山で明らかにされたこと】

- 偶像は人の願望。人の欲望の具現化にすぎない偶像に力はない。
 - ➔ 真実の神、主は、約束を守り、歴史を支配する力ある神である。
- 主を証しすることが、神の民、信仰者に与えられた使命である。
 - ➔ “主こそ神” “主イエスこそ神” と、告白し証ししているか。
- すべての信仰者は、真実の王メシアの先駆者として遣わされている。
 - ➔ 再臨の主イエスの先駆者と言えるクリスチャンの使命は？
 - ➔ 福音を告げ、聖書が示す時代のゴールを指し示しているか？

【聖書の学びは、あなたの平安に結びついているだろうか？】

- 約束の神の確かな計画を知ることは、何よりの**平安**をもたらすはず。終末論の知識が、**平安**につながっていないなら、根本的な問題が!!

例) 様々な動画を列挙し、世の終わりだ世界政府だと騒ぐ人々。

- バアルの預言者たちのように、多数で力を誇っていても、欲望による人の結びつきなど表面だけ。簡単に雲散霧消する。

➡ 統一された世界的な悪の組織など、人に作れるわけがない。

預言された世界政府は、神の直接的介入なくしてありえない。

統一された悪という妄想に囚われ、恐れに寝食されてないか？

【私の信仰を真実に支えてくださる方に全信頼を寄せよう】

■若者が様子を見に行く間、祈り続けていたエリヤがイエスに重なる。

➔主イエスは、弟子たちが眠っていた間、ずっと祈られていた。

神の怒りの杯を飲み干す、歴史的決意をもって悪に勝利された。

➔主イエスが、弟子たちの信仰がなくならないよう祈られた。

■私の信仰は、100%主イエスの祈りに支えられている。

私に力はない。だからなすべきは、100%主に信頼することだけだ。

エリヤが孤独の逃亡生活の中で学ばされたことを、私も学ぼう。

ただ主に信頼することを、日々決断していこう。

- 「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
 - ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
 - ③三日目に復活(ふっかつ)したこと、
- を信じます。

それでも簡単(かんたん)に おそれに囚(とら)われる わたしがいます。
わたしの信仰(しんこう)は、主イエスのいのりに 完全(かんぜん)に
ささえられているものです。

ただ主を信頼(しんらい)することを 日々、決断(けつだん)して
いけますように。

ご聖霊によって助(たす)け、たしかに導(みちび)いてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」